

建設（都市及び地方計画）部門の2次試験体験記です。

平成24年度に1次試験を突破し、平成25年度は玉砕…平成26年度に晴れて合格しました。

自分が試験を受けるにあたり、感じたことや気になっていたことを皆様にお伝えしたく、体験記をまとめました。

1. 平成25年度筆記試験 …不合格 全くの準備不足

- ・筆記試験対策 独学（上司の添削）
- ・購入問題集 5冊（過去問系2冊、論文の書き方系3冊）
- ・試験対策答案作成 過去問3題
- ・準備期間 約1.5カ月（5月は頑張りましたが、6月、7月は中だるみ…8月試験直前に少し）

平成25年春、過去問と問題集を解くことで1次試験を合格した私は、2次試験も過去問と問題集を解けば合格できると思っていました。

技術士とはどんな資格で、どんな能力を求められているのか…よく理解できていなかったと思います。試験に受かればもらえる資格ぐらいの気持ちでした。

技術士に求められることを理解し始めたのは、平成26年度に SUKIYAKI 塾の講師の皆さんと出会ってからです。このお話は後ほど展開したいと思います。

(失敗 point1 : 技術士とは何か…を理解していなかった。)

普段の仕事で各種方針やマスタープラン作成など文章を書くことの多かった私は、過去問を見て、この問題であれば普段の仕事の延長でなんとか答案を書ききれると考えていました。

同僚からは、

「試験は手書きだからワープロに慣れていると厳しい。試験会場ですばやく論点の整理ができないと合格できない。骨子法による論理の整理が有効。」

と SUKIYAKI 塾の HP を推められたのですが、文章を書くことが苦でなかった私は、

「普段の調子で書けばどうにかなる。」

と骨子で整理することの重要性を認識できていませんでした。

(失敗 point2 : 骨子法を習得しなかった。)

5月は精力的にひたすら過去問を解きました。完全な答案を作成するため同じ問題を何度もの度も推敲し、ほぼ完璧な答案（自己評価ですが…）を3題程仕上げました。この時は、「これで完璧…論文試験対策は終わった」

などと、ほんとに馬鹿なことを思っていました。今思い返すととても恥ずかしくなります。

安心したせいか6月、7月は択一問題の過去問を解くだけで、まったく論文試験の準備を怠っていました…さすがに試験直前になって少し焦り、模擬答案の暗記をしましたが後の祭りです。

(失敗 point3 : 全くの準備不足…)

試験当日…準備不足もあって不安でドキドキしながら、

(どうかお願いします…自分の専門分野でありますように…)

と問題を開くと…自分の専門分野に関する問いばかり！！

(よし！ これは合格だ！！)

と声に出そうになりましたが…答案を半分くらいまで書き進めた段階で論理矛盾に気づき、消しゴムで消しては書き直すを数回繰り返し、どうにか全ての問題を時間内に書き終えたものの、満足のいく答案ではなくとても後悔が残りました。

(何をやっているんだ、自分は…)

暑い夕暮れにとぼとぼと歩く淋しさは何とも言えないものです。

12月…不合格。一分の望みを持って結果を待っていたのですが、「B」不合格です…

今度は寒い北風がとても心の傷口に沁みました。

『今年こそは技術士合格』

初詣で絵馬に書き、心に誓うとともに神様にも少し(かなり)お願いをしました。

2. 業務経歴書 …実はとても重要な位置付け

- ・ 出願対策 小論文の添削(上司、都市計画コンサルタント協会)
- ・ 購入書籍 なし
- ・ 参考資料 SUKIYAKI 塾のHP
- ・ 準備期間 0.5 カ月

当初私は、これほどまでに業務経歴票が試験において重要な位置付けであるとは正直思っていませんでした。

業務経歴票を履歴書の様に思っていました。試験官に過去の経歴が分かればよいと…入社してから業務を順に書き、「これで完璧！！」と思っていたのですが、

SUKIYAKI 塾のHPを見て愕然…『技術士としての成長過程がわかるように…』…(はて、成長過程とはなんぞや??)

自分の経歴票を読み返してみると全く成長過程がわからない…

そこで考えたのは、業務経歴票は口頭試験で使われる ⇒ 口頭試験の読み原稿を作る ⇒ 人に聞いてもらう。 ⇒ 成長過程を理解してもらえたら…それを経歴票に書く…

我ながら”素晴らしい連想！！”とか思いながら、口頭試験の読み原稿を作り、奥さんに聞いてもらい、その内容を業務経歴票に反映させました。

今思えばこれが口頭試験の時に生きました！！

(point1: 口頭試験をイメージしながら業務経歴票を作成)

3. 筆記試験 …骨子法の重要性を認識。そして骨子法が試験で大活躍

- ・ 筆記試験対策 都市計画コンサルタント協会 試験対策講習会
添削 (SUKIYAKI 塾、上司、都市計画コンサルタント協会)
- ・ 購入問題集 APEC-semi 平成 25 年度筆記試験合格答案事例集
- ・ 試験対策答案作成 想定問 7 題 過去問 3 題 骨子のみ作成 15 題
- ・ 準備期間 約 4 カ月 (4 月～8 月試験前までみっちり準備)

平成 26 年 4 月、昨年度の反省から、手書きでの答案作成になれることを重点に置き準備を始めました。

また、今年こそは合格と周囲に意思表示していたところ、上司から「都市計画コンサルタント協会の講習会が良くまとまっており有効だ。」

とのご助言をいただき、早速、4 月末に受講。網羅的に整理された講習会資料をバイブルとして想定問をひたすら解きました。

そして 5 月、運命の出会いがあります。

SUKIYAKI 塾のホームページを覗いてなんと無料添削の募集の案内が…！！即応募しました。

しかし、講師一覧を見てみると『都市及び地方計画』の講師は数名…抽選に当たりますようにと神様に祈りながら待ちました。そして SUKIYAKI 塾から講師確定のメールが！「きっと絵馬の力だ！！」と、ドキドキしながら挨拶メールを講師さんに送ったのは今でも覚えています。

この出会いがその後の学習と自分の技術士に対する認識に大きな影響を与えます。

SUKIYAKI 塾の添削では、骨子法で論点を整理してから、文章にすることをひたすら繰り返しました。今、その時の骨子を見返すと、6 月当初の骨子は恥ずかしくなるような内容でしたが、徐々に良くなり、7 月にはまあ見れるような形になったのがわかります。

講師さんの適切なアドバイスがとても参考になりました。悶々と試験勉強をしていると、どうも視野が狭くなりがちですが、講師さんからは、狭くなった視野や論理展開の矛盾を客観的に指摘していただき、とても効果的に試験対策ができました。

その後はひたすら、骨子を作成⇒ 手書きで答案を作成⇒ 骨子を作成⇒ 手書きで答案を作成する…を繰り返し、想定問題を 7 題、過去問を 3 題、骨子を 15 題ほど作成しました。

こんなにも準備をしたの？と思われるかもしれませんが、骨子法に慣れてくるとさほど文章を書くのは苦になりません。

どちらかと言うと、解答を作成するための資料集めに時間がかかりました。ネット検索や講習会テキスト、国土交通白書などひたすら資料を読み漁りました。

この準備が当日の自信につながったのだと思います。

(point2: 骨子法をひたすら訓練)

6月、7月は、骨子を作成するのにとても情報を欲していました。脳がスポンジでしたので、より多くの情報が欲しくて、様々な講演会や講習会を聴講しました。国土交通省開催のものや都市計画学会主催のもの、都市計画コンサルタント協会主催のもの…その気になってネット検索すると数多くの講習会や講演会が開催されており、時間の許す限り参加しました。無料のものも多くとても助かりました。もともと講演を聴くのが好きでしたので、全ての講習会を最前列でかぶりつきで聴講しました。

講演会からは自分の知識を体系的・客観的に整理するだけでなく、その中から、試験当日の回答につながる多くのヒントを得ることができました。

(point3 : 講習会・講演会で情報収集)

試験当日…ほぼ想定内の問題でした。都市マスと立地適正化計画…自分の専門分野です。初めの10分、骨子法で解答の論理構成を確認しました。

頭の中からキーワードが泉の様に湧いてきます。そして、そのキーワードを試験問題の余白を利用して、骨子法で論理的に整理する…骨子法の訓練を重ねた効果を実感しました。全ての問題で骨子法が大活躍です。これによりキーワードの羅列ではなく、論理的な解答の展開ができたのだと思います。

答えは、緊張で力が入りすぎたせいか、なかなかスムーズに文字が書けず、時間内なんとか書き終えた感じでした。試験が終わっての帰りの電車では、つい、ビールを飲んでしまいました。周囲の乗客からはちょっと（かなり？）冷たい視線はありましたが、この解放感は何とも言えないものです。

4. 口頭試験 …技術士とは何か？を真剣に考えた

- ・ 口頭試験対策 SUKIYAKI 塾東京：口頭試験模試、都市計画コンサルタント協会
- ・ 試験対策 想定 Q&A の作成
- ・ 準備期間 約2カ月 （合格発表から試験当日までみっちり準備）

平成26年10月…いよいよ合格発表…朝一番に技術士会のHPで確認をしました。

「やった！！合格！！！！」

この時の喜びは今でも忘れられません。さあ、いよいよ口頭試験準備です。

まず、想定Q&Aを作成しました。特に自分の業務経歴の詳細について、約50問の質問をつくり解答を作成しました…そして、そこから連想ゲームの様に質問を発展させ…これに答える…を繰り返しました。解答を紙に書いて考えることにより曖昧な単語でごまかすことなく、質問に対してストレートな答えをする訓練ができたと思います。

(point4 : 正しい言葉で解答をする訓練)

そして、SUKIYAKI 塾の口頭模試。緊張しながらもなんとか解答し、本番の雰囲気を経験することができました。試験前に模擬体験することで精神的にかなり余裕ができたと思います。

この口頭模試からは、自分の話し方の悪いところがいくつか洗いだせました。その中でも“答えが冗長的である”ことを実感できたのはよかったです。

私の解答は、結論だけでなくその過程・根拠も話していました。質問に対して簡潔に答えられていません…30秒で答えられることを1分かけて解答しています。

模試の録音を後で聞き返して議事録を起こし、文字にした自分の言葉を見て、不要な箇所を削りシェイプアップしました。この作業は本番で簡潔に答える良い訓練となりました。

(point5: 自分の話し方を客観的に見る)

SUKIYAKI 塾講師の皆様は、なぜボランティア（無報酬）で私たちを指導してくれるのだろうか…当初からとても疑問に思っていました。技術力に対して対価をもらうのが私たちの仕事であり、数十万する添削講座が雑誌にいっぱい掲載されています…この疑問が解けたのが口頭模試でした。

添削でお世話になった講師さんからは、「自己研鑽として皆さんを指導しています。」との言葉がありました。また、SUKIYAKI 塾東京のHP冒頭にも記載がありますが、「技術者としてお互いに成長することを最大の目標」との言葉があります。

口頭模試で顔を合わせながらこの言葉を直接聞いて、“これが技術士なんだ”と感銘を受けました。この時、自分の中の技術士に対する意識が、

「技術士になるために試験に合格する。」 ⇒ 「技術力・倫理観があり、継続研鑽できる者が試験に合格し、技術士と名乗れる。」

に変化しました。

この変化で、口頭試験の回答も若干変化したと思います。自分の技術力をアピールするだけでなく、自分を高めるための研鑽を続ける気持ちについても、伝えようと思いました。

(point6: 技術士とはなにか…自分なりに考える)

口頭試験、試験45分前には会場入りしました。比較的、気持ちが落ち着いていたことを覚えています。試験官からかなり技術的に踏み込んだ質問がありましたが、連想ゲーム式に想定Q&Aの訓練をしたことや、簡潔に答える練習をしたことがとても生きました。概ね全ての質問に、そつなく答えることができたと思います。

そして、この3月、晴れて技術士となりました。

以上で、私の体験手記は終わります。この体験記が皆様の参考になれることがあれば幸いです。

2015年3月